

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 80代	高血圧症 (軽度糖尿病, 軽度腎機能低 下,多発性脳 梗塞症,貧血, びらん性胃炎)	8mg 162日間	<p>低血糖 身長146cm, 体重33kg</p> <p>投与1ヵ月前 : びらん性胃炎のため入院。 投与開始日 : 高血圧に対してカンデサルタンシレキセチル投与開始。</p> <p>投与160日目 : 食事は通常大人の一人分を3回/日摂取。夕食時間19時。 運動は日常生活のみ(トイレ歩行や洗面程度で外出はしていない)。</p> <p>投与161日目 : 朝離床せず,ぼーっとしており(意識障害),左手足に麻痺を認めた。即座に他院受診し,低血糖(28mg/dL)を認めた。その後,両側上肢の痙攣発作出現。5%ブドウ糖輸液施行し,50%ブドウ糖の静脈内投与にても血糖値は40~60mg/dLまでしか上昇せず。</p> <p>投与162日目 : 低血糖の精査加療目的に当院受診。 投与163日目 : 10%ブドウ糖輸液施行,カンデサルタンシレキセチル投与中止にて血糖値は少しずつ改善し,意識障害も改善。</p> <p>中止2日後 : 下垂体CT:異常なし。ACTH85pg/mL,コルチゾール20.1μg/dL。TSH,FT₃,FT₄は基準値内。</p> <p>中止3日後 : 低血糖症回復。 腹部骨盤CT:肝,胆,膵に異常なし。</p> <p>中止5日後 : 胸部CT:古い胸膜炎以外異常なし。</p> <p>中止6日後 : 10%ブドウ糖点滴中の血糖値は126mg/dLであり,昼食前に中止。昼食3時間後の血糖値は64mg/dL。そのとき,IRI18.1μU/mL,CPR5.5ng/mLと高値であった。血糖上昇ホルモン(ACTH,グルカゴン,ノルアドレナリン,アドレナリン,ドパミン及びコルチゾール)は正常に分泌されていた。</p> <p>中止11日後 : 75g糖負荷テスト施行。 中止12日後 : ブドウ糖輸液中止後も低血糖みられず。 中止13日後 : 絶食テストにて,インスリン分泌腫瘍否定(24時間の絶食で血糖値78mg/dL,IRI4.0μU/mL,CPR0.8ng/mL)。</p> <p>中止34日後 : ガリウム腫瘍シンチ:異常集積なく,悪性疾患否定。 その後,規則正しい食事摂取,ボグリボース投与にて低血糖はみられず。</p>	企業報告

75g糖負荷テスト

	0分	30分	60分	120分	180分	240分	300分
血糖値(mg/dL)	100	195	220	209	162	153	76
IRI(μU/mL)	9.7	40.7	74.4	134.5	104.8	59.8	17.3

併用薬: レバミピド, シメチジン, 水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム配合剤